



光受寺通信

H.26年12月1日 発行
発行者 光受寺
<http://koujyuji.com/>

報恩講には「お斎」が用意されています。それはご門徒の方々から持ち寄せられた、大根、サトイモ、蓮根などの食材によって賄われています。伝統的な「お斎」の献立の基本は、一汁三菜となっていて、汁はけんちん汁、三菜は焚物、合物、風呂吹き大根と、それにご飯とお漬物が添えられるのです。大量に、時間をかけて調理される食材は、普段では味わうことができない、素材そのもののもつ素朴な味を引き出してくれるのです。

「遇い難き仏法に遇えた喜び」を感受しながらいただく「お斎」には、質素ではあるが「今われ幸いにこの清き食をうく」の感謝の思いがふつふつと沸き起こってくるものです。

真宗の風物詩とも思われるこの「お斎」のありかたも時代と共に変容しつつあるのですが、このあたたかな「心の継承」だけは忘れないように心がけて生きたいものだと思っています。

今年の報恩講も、お取り持ちの皆様のご苦勞によって、「心の荘厳」としてのお斎が出されます。多くの方にこそぞってご参詣いただけるよう、心から願っております。

光受寺
2017年



お粥の
ついで

住職の来年への思い

来年は皆さんと一緒に朝にお農朝 おあさじをお勤めできる口を持ちたいと考えています。今のところ毎月親鸞聖人の祥月命日(十八日)が良いかと考えていますが、土、日が良いかとも思ったりしています。新年に向けてお知らせいたします。

皆さんで正信偈を唱和し、御文をいただき、短い法話を聴いていただけたらなと思っています。さらに時間が許せば、お茶など召し上がっていただきながら、口頃の思いを語りいただくといいかもしれません。思いを膨らませています。また改めてご案内をいたします。

毎年多くの子供たちが、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんに連れられて来てくれます。よくもこんな時間まで起きていられたものだと感心するほどですが、これは子供の意志もなることながら、親御さんの思いによるものではないかと感じております。いすれにしても、お寺に足を運んでいただけることを、大変喜んでおります。

お寺に行くことが、日常で無くなってしまう今日、これが機縁となってお寺へ足を運んでいただけるようになればと願っています。

本堂では「おぜんどう」を用意してお待ちいたしております。また、子供たちの書道展もご覧いただけます。羊年の年賀状も展示

一月懇親会への誘い 第二土曜日夜六時より

来年もまた、一月恒例行事の懇親会を開く予定をしています。

おでん、で、パーティー」となっております。五〇〇円の会費制で気軽に参加していただけます。お酒もあるだけではありません。この日の夕食とかねてぜひ光受寺へいただけたらと、お待ちいたしております！
魂胆は何もございません。



来年の学習会は一月から始まります。

今年はお文を中心として真宗を学んできました。

教えを分かりやすくお伝えくださっているご苦勞は大変なものがあつたろうと推測されますが、蓮如上人のこの「苦勞があつたからこそ、今の真宗があるのだと、改めて実感させられることでした。引き続き来年も第二土曜七時から開催の予定を致しております。

聖人一流の御勸化のおもむきは、信心をもって本とせられ候う。

そのゆえは、もろもろの雑行をなげすいて、一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として、仏のかたより往生は治定せしめたまう。そのへらいを「念發起入正定之聚」とも釈し、そのつねの称名念仏は、如来わが往生をさだめたまいし、御恩報尽の念仏といふことなきなり。あなかしこ。あなかしこ。

親鸞さまの教えの素晴らしさは、阿弥陀如来の明るい眼とのめぐり合い、信心を目

的とされたところにある。つまり、私たちを誘惑する見せかけの幸せに振り回されずに、ただひとすじに阿弥陀如来の明るい眼に感化されて文句なしに頭が下がれば、これはまことに不思議なことだが、自然に広大な阿弥陀如来の世界の人となることが約束される。

その境地を中国の善導大師は、南無阿弥陀仏が私の生活に身生えれば、ただちに浄土に生まれることが決まった仲間に入る「念發起 入生定聚」（浄土論註）と教えられている。

そうなった後の口に称える念仏は、私を自覚めさせてくださった阿弥陀如来の恵みに対して、有り難うと感謝するお礼の念仏だといふことを忘れないうようにしたい小野である。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。

御文さま「真宗の一家庭学習」高松信英 東本願寺宗務所出版部より

短い御文さまではありますがありますが、親鸞聖人の教えの要点が述べられています。

私たちの日常は、目先の自分の都合の良い御利益ばかりに振り回された生活をしていますが、時として「ややお金や物には換えがたいものをお願いしたな」と感じることもあります。それはどんな時だったのかを、今一度思い起していただきたいのです。そこにはきっと南無阿弥陀仏が私に届けられていた一瞬だったと思えるのです。

南無阿弥陀仏は常に私たちの上へ届けられています。損得勘定ばかりの生活の中にも、自分に都合の悪いと思われぬことや、日常の苦しみの中にも阿弥陀さまの大悲のはたらき感じ取っている生活が大切なのです。そこにお念仏が生まれてくると思っております。

それが光受寺の「お念仏の生まれる生活を共に」の生活姿勢でもあったのです。「おんむね」それがお念仏となり、浄土が開かれてくるのです。

展示作品募集

来年の枝垂れ梅観梅展に展示室 聴風庵（本堂）に展示する作品を募集しております。

写真、絵画、書、その他、皆さんの趣味を生かした作品展示に協力ください。



11月22日撮影

皆さまの姿に整いました。楽しんでいただけると嬉しいです。

本堂内陣「修復完成いたしました。」

本堂建てお越しの関係で、御遠忌以降に金箔が浮き上がっていました。

やむを得ない工事の後遺症と判断し、修理をさせていただきます。になりましたが、おかげをもちまして、きれいに張り替えらわ、思えない程になりました。簡単に考えましたが、ずいぶん手間がかかっていたようです。

十一月二十五日完成 致しました。

